

3. 各作業の施工歩掛

3-1 日当り施工量

各作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表3.1 各作業の日当り施工量

(1日当り)

作業	工種	機種	規格	単位	数量	
					標準	障害あり
敷均し・締固め	路体・築堤	ブルドーザ	排出ガス対策型 (第1次基準値) 普通 15 t 級	m ³	621	315
			排出ガス対策型 (第1次基準値) 普通 21 t 級		882	513
			排出ガス対策型 (第1次基準値) 湿地 16 t 級		504	315
			排出ガス対策型 (第1次基準値) 普通 15 t 級		486	252
	路床		排出ガス対策型 (第1次基準値) 普通 21 t 級		693	405
			路体・築堤		タイヤローラ	排出ガス対策型 (第1次基準値) 8~20 t
路床	522	144				
敷均し締固め	路体・築堤	ブルドーザ	排出ガス対策型 (第1次基準値) 普通 15 t 級	m ³	369	171
			排出ガス対策型 (第1次基準値) 普通 21 t 級		540	225
			排出ガス対策型 (第1次基準値) 湿地 16 t 級		306	144
			排出ガス対策型 (第1次基準値) 普通 15 t 級		216	117
	路床		排出ガス対策型 (第1次基準値) 普通 21 t 級		324	135

(注) 1. 作業条件は次の諸条件を考慮し、選択するものとする。

標準：作業現場が広く、かつ作業障害が少ない場合

(例えば新設のバイパス工事、あるいは新設の築堤工事等)

障害あり：作業現場が狭い、又は作業障害が多い場合

(例えば現道上の工事・一車線程度の現道拡幅工事、あるいは拡築(腹付、嵩上)工事等)

2. 上表は、締固め後の土量である。

3. プレロード盛土については土木工事標準積算基準〔Ⅲ〕についても参照のこと。

3-2 補助労務

機械による敷均し及び敷均し締固め作業の補助として、次表を計上する。

表3.2 機械補助労務

(100 m³当り)

作業	工種	名称	単位	数量
敷均し ・ 敷均し締固め	路体・築堤	普通作業員	人	0.22
	路床	〃	〃	0.33

平成25年10月1日以降～平成26年4月29日迄起工適用

3. 各作業の施工歩掛

3-1 日当り施工量

各作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表3.1 各作業の日当り施工量

(1日当り)

作業	工種	機種	規格	単位	数量	
					標準	障害あり
敷均し・締固め	路体・築堤	ブルドーザ	排出ガス対策型 (第1次基準値) 普通 15 t 級	m ³	552	280
			排出ガス対策型 (第1次基準値) 普通 21 t 級		784	456
			排出ガス対策型 (第1次基準値) 湿地 16 t 級		448	280
			排出ガス対策型 (第1次基準値) 普通 15 t 級		432	224
	路床		排出ガス対策型 (第1次基準値) 普通 21 t 級		616	360
			路体・築堤		タイヤローラ	排出ガス対策型 (第1次基準値) 8~20 t
路床	464	128				
敷均し締固め	路体・築堤	ブルドーザ	排出ガス対策型 (第1次基準値) 普通 15 t 級	m ³	328	152
			排出ガス対策型 (第1次基準値) 普通 21 t 級		480	200
			排出ガス対策型 (第1次基準値) 湿地 16 t 級		272	128
			排出ガス対策型 (第1次基準値) 普通 15 t 級		192	104
	路床		排出ガス対策型 (第1次基準値) 普通 21 t 級		288	120

(注) 1. 作業条件は次の諸条件を考慮し、選択するものとする。

標準：作業現場が広く、かつ作業障害が少ない場合

(例えば新設のバイパス工事、あるいは新設の築堤工事等)

障害あり：作業現場が狭い、又は作業障害が多い場合

(例えば現道上の工事・一車線程度の現道拡幅工事、あるいは拡築(腹付、高上)工事等)

2. 上表は、締固め後の土量である。

3. プレロード盛土については土木工事標準積算基準〔Ⅲ〕についても参照のこと。

3-2 補助労務

機械による敷均し及び敷均し締固め作業の補助として、次表を計上する。

表3.2 機械補助労務

(100 m³当り)

作業	工種	名称	単位	数量
敷均し ・ 敷均し締固め	路体・築堤	普通作業員	人	0.25
	路床	〃	〃	0.38